

教育修身研究

「復刻版」
全20巻
別冊1

1931（昭和6）年～1944（昭和19）年

〔1941年11月より『教育修身公民研究』に改題〕

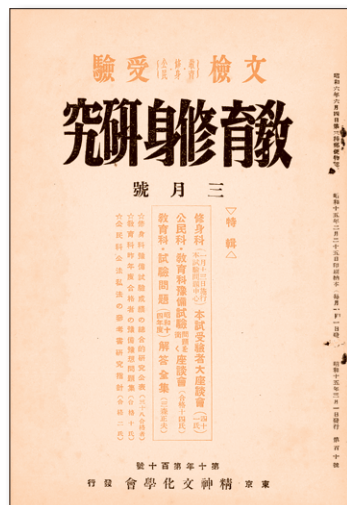
日本教育学会〔1937（昭和12）年より精神文化学会〕発行

◎解説〓竹中暉雄

◎推薦〓寺崎昌男

船寄俊雄

松下良平



◎体裁〓B5判（二面付）

上製

総約11、700頁

◎価格〓本体462、000円＋税

（全7回配本）

不二出版

『教育修身研究（改題誌『教育修身公民研究』）は、文部省が実施していた中等学校の教員免許資格試験「文部省師範学校中学校高等学校教員検定試験（文検）」の科目「教育」「修身」「公民」に特化した受験雑誌である。

文検の受験者は数千人規模、多いときは一万人を超えたが、合格者数は全体の一〇％前後と難関であった。受験者の多くは通常の仕事をしながら受験勉強をしなければならない厳しい状況下で、「心の灯火」「親切的な文検指導雑誌」として「貪り読」まれた雑誌、それが『教育修身研究』であった。

『教育修身研究』は、文検に関する情報や合格体験記の他に、予想問題による模擬試験の実施・添削・優秀答案の掲載など特色ある編集内容であった。また読者との交流座談会（本誌にも収録）や予試・本試の合格電報などを実施したことにより、長年にわたり多くの読者から支持・感謝され続けた。

また、一九三一（昭和六）年の満洲事変以後、軍国主義・愛国主義が煽られ思想統制が強化されるにつれ、文検の試験内容にも大きな影響を与えた。そのため編集責任者の島為男は絶えず「良心の呵責」に悩まされ続けつつ可能な限りの「苦渋の抵抗」を誌面で展開した。

教育史研究をはじめ、教師教育研究、教育思想研究にも多くの示唆を与える貴重かつ重要な資料である。

細密で鋭角的な教育理論と同人意識

―教員検定試験に集った教育者たちの交流誌―

寺崎昌男

「検定試験受験雑誌」と言えば「ああそうか」と片付けられる種類の貧寒なメディアであるように見える。『教育修身研究』（のち『教育修身公民研究』）もまさに文部省による教員資格検定試験の情報誌で、満州事変勃発の一九三一年から敗戦前年の一九四四年まで一三年間にわたって発行された。具体的には中学校・高等女学校・実業学校（一九四三年から「中等学校」と総称）の倫理・修身・公民・教育の担当教員をめざす者たちの学習誌であったが、決して泡沫雑誌ではなかった。雑誌名の示す受験科目のうち「教育」は全受験者にとって必修科目に近く、「修身」や「公民」は各学校の必修科目だったから教員ポストも多かったと見られる。従って読者数も安定し、刊行期間も長かった。

だがこの雑誌は単に好奇心をそそるだけの資料ではない。三つの点から研究関心が呼び起こされる。

第一に、竹中氏の解説が鋭く迫っている通り、試験問題解説、模範解答、読者との質疑応答、編集者や指導者の論説などを通して、戦時下の教育理念や教育界動向と編集者の教育観との葛藤や緊張を、細密な文体で読み取ることができる。第二に、本誌は同人誌・共同学習誌としての性格を最後まで失わなかった。そしてその同人の中心にいたのは、かつて民間教育運動の闘士の一人だった島為男という人物であった。そして島とその仲間の編集者や受験生たちとは単なる学者・学生ではなく、現職の教育者そのものであった。彼らが本誌で展開している言論風景は、同時代の他誌ではめったに見られない交流と鋭い対話である。第三に、随所に現れるのが、昭和戦前戦中期における教育学の種々相である。教育学説の地図が「教育」の試験と受験体験という独特の体験を通して見えてくる。他ではめったに接することのできない風景である。ぜひ一読をお薦めしたい。

（東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授）

手元に置いてじっくり繙きたい教育雑誌

船寄俊雄

『教育修身研究』の復刻。朗報である。解説を担当するのは、同誌を本格的に分析した唯一の学術論文を執筆した竹中暉雄氏（桃山学院大学名誉教授）である。まことに人を得た企画といってよい。

同誌は、国立国会図書館にも各地の公共図書館にも大学図書館にもほとんど所蔵されていない希少な雑誌である。同誌は、戦前に存在した中等教員資格付与のための国家試験（「文検」と呼ばれた）の「教育科」「修身科」「公民科」志願者のための雑誌であったから、受験後は用無しとされる宿命であり消耗度が激しかった。同じく「文検」の受験雑誌である『文検世界』や『文検受験生』と比較してもその残存率ははるかに低い。だからこそ朗報なのである。

竹中氏が述べるように、戦時下において時局迎合的な記事も多く掲載されているが、同時に「文検」の設問や試験委員に対する批判的な記述もあり、その矛盾的性格が同誌の最大の特徴であった。その点で単なる受験雑誌ではなく、戦時下の教育学説や倫理学説の変化に関心を有する研究者にとって極めて有益な史料である。

一九八〇年代に大学院に入り研究を始めた私は幸運であった。『文部省雑誌』『教育報知』『教育時論』『帝国教育』『教育学術界』『小学校』『日本の小学教師』等々が相次いで復刻され、研究室に居ながらにしてそれら教育雑誌を繙くことが出来たからである。教育雑誌が発信する情報は細かく雑多である。それらを収集・吟味しようとしたら、手元に置いて一頁ずつ繰っていく作業が必須となる。この機会に是非研究室、図書館に備えて欲しい。

（神戸大学教授）

荻野富士夫編・解説

文部省思想統制関係資料集成 全11巻

- ◎体裁——A4判・上製・総4、620頁
◎推薦——額縁厚／逸見勝亮／前田一男／松尾尊兌
◎価格——本体275、000円＋税

本資料集成は、これまで顧みられなかった戦前文部省の治安機能に焦点をあて、主に一九三〇年代以降の教育・学術・思想の領域における「統制」から「動員」への流れを明らかにするものである。具体的には、大学・高校などの学生思想運動の取り締まり・思想善導から出発した教育方策・原理が、教育全般・学術研究の統制・動員に拡張され、「教学錬成」の旋風を巻き起こし、戦争遂行体制の主導役となりつつ、教育の自壊に至る軌跡を、文部省学生部・思想局・教学局作成の資料を中心に全五〇点を収録し解説を付して刊行する。

沖縄文教部／琉球政府文教局発行（一九四六年～一九七二年刊）

文教時報 全18巻・付録1・別冊1

- ◎編・解説——藤澤健一／近藤健一郎
◎別冊——解説・総目次・索引（分売価格 本体3、000円＋税）
◎体裁——A4判／B5判／A5判・上製・総9、964頁
◎価格——本体392、000円＋税

第二次大戦後、米軍に占領されていた時期、沖縄・宮古・八重山（一時期、奄美を含む）において文教担当部局が刊行した『文教時報』を復刻する。統治者として君臨した米国側との関係、また沖縄教職員会をはじめとした教員団体との関係、「復帰」に向けた日本政府や文部省との関係、さらに離島や村落の教育環境など、同誌は変動する沖縄現代史のダイナミズムを体現するかなような史料群となっている。

東京府教育会発行（明治二十年～明治三十一年刊）

東京府教育会雑誌 全9巻・別冊1

- ◎別冊——解説（白石崇人）・総目次・関連年表
[分売価格 本体2、000円＋税]
◎体裁——A5判・上製・総約4、200頁
◎推薦——梶山雅史／渡部宗助
◎価格——本体164、000円＋税

本誌は明治二一年に発足した東京府教育会の機関誌で、東京府の教員や地域住民がそれぞれ知力と人脈を駆使し、協働して教育の改良上進に取り組んだ軌跡が豊富に記されている。具体的には、地域の公私立学校の実践・実態や、教員・教育関係者の論説、教員人事の動向など、当時の東京府内の教育事実を示す記事が数多く収録されている。
第一～一〇二号までの内、新発見の第一～五号を含む七八号分を復刻。

成城学園新聞部発行（昭和四年～昭和二十四年刊）

成城学園時報 全2巻・付録1・別冊1

- ◎別冊——解説（青柳恵介）・総目次・索引（分売価格 本体2、000円＋税）
◎付録——『成城文化史』（分売価格 本体10、000円＋税）
◎体裁——B4判（付録A5判）・上製・総824頁
◎推薦——岩田一正／木村元
◎価格——66、000円＋税

大正一五年に開校した旧制成城高等学校では、昭和四年に『成城学園時報』が創刊された。既に刊行されていた校友会雑誌『城』の部報欄を独立させ、学園全体の機関新聞とするのが本紙の主旨であった。紙面は学園行事の報告、運動部の試合結果や活動内容紹介の記事をはじめ、教師や卒業生の投稿、学生が書いた政治・文化評論等、多様な記事が収載されており、当時の学生生活の様子を生き生きと伝えている。また文面は本格的で、学生の文章表現能力の高さを垣間見ることできる。成城学園創立百周年を記念して復刻。

社会移動を支援するメディアによる 戦時下の政治批判

松下良平

戦前に学歴のない者が中等学校教員になるための道は細く険しいものであった。その困難な道が「文検」であり、その試験対策用の受験雑誌の一つが『教育修身研究』である。いかにも好事家向けのマイナーな研究史料に見える。

けれども、この小さな雑誌からうかがえる世界は、戦前についてのステレオタイプ化されたイメージを突き崩す。体制を支えるか、さもなければ沈黙し時に転向していく知識人と、時代の空気に流されて付和雷同していく大衆の二つの階層。戦間期の社会階層はこのように表象されがちであるが、本誌から垣間見えるのは両者の狭間にいた人々の生々しい息づかいである。

いよいよ風雲急を告げていく政治状況下において、知識人層への社会移動を試みる人々を支えた受験雑誌の編集者たちによる時局への追従と抵抗。この雑誌からはそれがつぶさに浮かび上がってくる。竹中暉雄氏が解説しているように、島為男を顧問に抱く編集者たちは、時局にに応じた受験指南を行いながらも、時に時局批判的な論説を掲げ、アカデミズムを代表する検定委員の説や設問を辛辣に批判した。他方、委員らもまた、「修身」や「公民」の試験で時局に沿った設問を限定するなど、国策への黙従を慎重に拒んだ。戦時下であっても教育界から批判の実践が失われていたわけではないのだ。

翻って今日の教育界はどうだろう。静かに高まりつつある新たな時局の圧力に、「自由な」教育者はどのように応じようとしているのか。中等学校教員に期待された文化の質の高さを含め、抵抗の限界にひそかに挑み続けた戦前の人々の苦悩の軌跡から学ぶべきことは、むしろ増えつつあるのではなからうか。

(武庫川女子大学教授)

★教育修身研究・二月増大號（第一〇九號） 目次★

巻頭言 今からでも遅くはない

講演

吉田熊次・教育科委員の「教育教授の諸問題」要領

論説

小林澄児・教育科委員の「先づ教育から」の要點

委員の論著・紹介・解説・批判

櫻井重雄・公民科委員の「これからの法律とこれからの法律」要領

★教育科（昭和十五年） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

修身科委員 吉田 静 政氏（一五）

★公民科（昭和十五年） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

国民道徳委員 原 三 郎氏（一六）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（一七）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（一八）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（一九）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二〇）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二一）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二二）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二三）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二四）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二五）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二六）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二七）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二八）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（二九）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三〇）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三一）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三二）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三三）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三四）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三五）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三六）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三七）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三八）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（三九）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四〇）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四一）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四二）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四三）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四四）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四五）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四六）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四七）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四八）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（四九）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（五〇）

★修身科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（五一）

★公民科（昭和十四年度） 豫備試験問題を衝く（昨年合格者）

教育科委員 吉田 熊 次氏（五二）

六號記事

昭和十四年度 修身科本試験問題検討大座談會

△本年度大卒業生論文題目

△本年度大卒業生論文題目

△本年度大卒業生論文題目

△本年度大卒業生論文題目

教育修身研究「復刻版」全20巻・別冊1

◎体裁ⅡB5判(二面付)／上製／総約11、700頁

◎別冊Ⅱ解説(竹中暉雄)・総目次

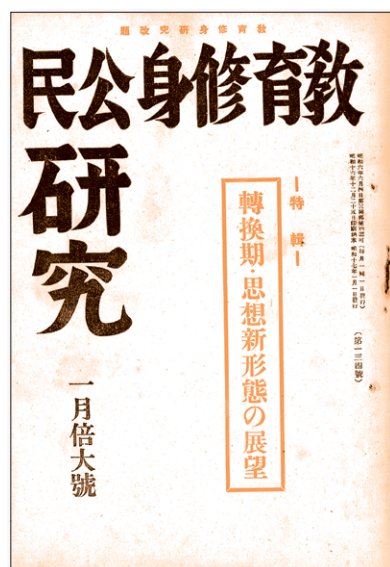
※別冊分売可Ⅱ本体2、000円＋税
ISBN 978-4-8350-8201-1

◎推薦Ⅱ寺崎昌男／船寄俊雄／松下良平

◎価格Ⅱ本体462、000円＋税

◎配本一覧

◎2017年度合計Ⅱ48、000円＋税										◎2018年度合計Ⅱ207、000円＋税									
第1回配本			第2回配本			第3回配本			配本 巻数	第4回配本			第5回配本			第6回配本			配本 巻数
別冊(解説・総目次)	第2巻	第1巻	第5巻	第4巻	第3巻	第8巻	第7巻	第6巻		第11巻	第10巻	第9巻	第20巻	第19巻	第18巻	第17巻	第16巻	第15巻	
第20～22・24・26・29号	第3・4・7・10・16・19号	昭和6年6月～7年10月	昭和9年9月～10年4月	昭和9年3月～8月	昭和8年9月～9年2月	昭和11年7月～12年2月	昭和10年12月～11年6月	昭和10年5月～11月	昭和7年5月～11月	昭和13年5月～11月	昭和12年10月～13年4月	昭和12年3月～9月	昭和18年4月～19年3月	昭和17年8月～18年3月	昭和17年1月～7月	昭和16年6月～12月	昭和16年1月～6月	昭和15年7月～12月	昭和14年12月～15年6月
2018年3月	2018年3月	2018年3月	2018年6月	2018年6月	2018年6月	2018年10月	2018年10月	2018年10月	2019年2月	2019年2月	2019年2月	2019年2月	2019年6月	2019年6月	2019年6月	2019年10月	2019年10月	2019年10月	2019年6月
48,000円＋税	48,000円＋税	48,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税	69,000円＋税
8350-8173-1	8350-8173-1	8350-8173-1	8350-8177-9	8350-8177-9	8350-8177-9	8350-8181-6	8350-8181-6	8350-8181-6	8350-8185-4	8350-8185-4	8350-8185-4	8350-8185-4	8350-8189-2	8350-8189-2	8350-8189-2	8350-8193-9	8350-8193-9	8350-8193-9	8350-8189-2



◎2019年度合計Ⅱ207、000円＋税

*第132号より『教育修身公民研究』に改題。

*価格下の数字はISBNを示し、頭に「978-4-」が付きます。

不二出版

〒111-0033 東京都文京区向丘1-11-2
TEL 03-3821-4433
FAX 03-3821-4434
振替 0016011194084

表示価格は、全て税別